

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **119** 号

令和3年 10・11・12月



夾纈羅幡 部分 正倉院宝物

特別展

第73回 正倉院展

10月30日(土)～11月15日(月)
東・西新館

特別展

名画の殿堂 藤田美術館展 — 傳三郎のまなざし —

12月10日(金)～令和4年1月23日(日)
西新館

名品展

珠玉の仏たち

通年
なら仏像館

中国古代青銅器

通年
青銅器館

第73回 正倉院展

10月30日(土)～11月15日(月)

奈良の秋を彩る正倉院展は、今年で七十三回目を迎えます。今回も、楽器、調度品、染織品、仏具、文書、経巻など、多彩な正倉院宝物の世界をお楽しみいただけます。

今回注目される宝物に、聖武天皇の遺愛の品である螺鈿紫檀阮咸(円い胴の絃楽器)があります。螺鈿や玳瑁といった高貴な素材で華麗な装飾が施された、正倉院の楽器を代表する宝物です。また、漆金薄絵盤(蓮華形の香台)は、蓮弁の一枚一枚に極彩色の文様が描かれ、仏堂を美しく荘厳した様子が目に浮かびます。

奈良時代の仏教を象徴する出来事となった東大寺の大仏開眼会にゆかりの宝物がまとまって出陳されるのも、今回の特徴です。大仏開眼会に際して献納された品の一つ、白瑠璃高坏(ガラス製の高坏)は、高度な技術水準を示す名器で、遙か西方の地で作られたと考えられます。そのほか、大仏開眼会で演じられた楽舞の装束も出陳され、法会場の華やかな情景をうかがうことができます。

さらに、これまで正倉院宝物では知られていなかった色染め技法が確認された茶地花樹鳳凰文蒔縹(文様染めの絹織物)や、今日のものとは異なる紙巻き構造をもつ筆など、宮内庁正倉院事務所が、最近調査成果を発表した宝物も出陳され、研究の最前線に触れていただくことができます。また、筆とともに墨、紙、硯といった文房具もまとまって出陳され、奈良時代の筆墨の文化に思いを馳せていただく機会ともなるでしょう。

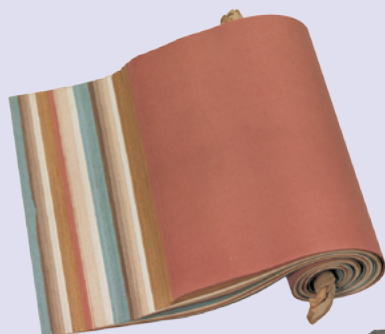
なお、昨年に続き、感染症拡大防止に万全の対策をとるため、観覧には前売日時指定券をあらかじめお求めいただく必要があります。ご不便をおかけいたしますが、安全にお楽しみいただくために、ご理解の程をお願い申し上げます。



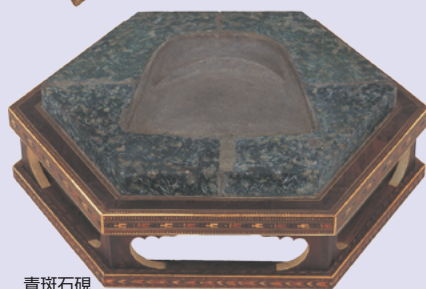
曝布彩絵半臂



白瑠璃高坏



色麻紙



青斑石硯



筆



螺鈿紫檀阮咸(背面)

「第73回 正倉院展」の観覧には前売日時指定券が必要となります。
当日券の販売はありませんのでご注意ください。

前売日時指定券は、ローソンチケット[Lコード: 57700](ローソン及びミニストップ各店舗、電話受付[電話0570-000-028]、または公式サイト[<https://l-tike.com/shosointen>])で販売しています。当館チケット売場での販売はありません。また売り切れ次第販売を終了いたしますので、ご了承ください。券種等の詳細につきましては、展覧会チラシ、当館ホームページ、正倉院展ホームページをご確認ください。



漆金薄絵盤

特別展

名画の殿堂 藤田美術館展

―傳三郎のまなざし―

12月10日(金)～令和4年1月23日(日)

本展は二〇一九年春に開催した特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」の続編で、平安時代から近代にいたる各時代、そして日本美術に影響を与え続けた中国まで、同館が所蔵する様々な時代の絵画の名品を一堂にご紹介する特別展です。

藤田傳三郎(ふじたでんざぶろう)(一八四一―一九一二)の蒐集には、はじめ藤田美術館の絵画コレクションには、日本絵画史を通史的に把握するに十分な作品が擁されています。このたび、藤田美術館と奈良国立博物館が共同で行った収蔵品調査によって、未紹介の重要作品の存在も多数明らかとなりました。本展では、こうした初公開となる隠れた名品を含めた展示によって、藤田コレクションの奥深さ、さらには、コレクションが形づくられた明治時代の日本美術史の様相までを知ることができるでしょう。

二〇二二年四月に控えた藤田美術館のリニューアルオープンを前に、コレクションの魅力を一層深く味わっていただく特別な機会となります。

大獅子図 竹内栖鳳筆(大阪・藤田美術館)



百年ぶりの里帰り

—吉野山伝来の仏像と名古屋の篤志家—

当館学芸部主任研究員 山口 隆介

当館では、このたび新たに寄託を受けた普賢菩薩坐像と不動明王及び二童子立像（ともに個人蔵「図1、2」）の公開が始まった。普賢菩薩像は威厳ある顔立ちや鎧立った衣文に平安時代初期の作風を残す十世紀末から十一世紀初め頃の作、不動明王像は抑揚のある肢体と、着衣の優美な彩色・截金文様が魅力的な十二世紀の作であり（二童子像は江戸時代）、なら仏像館の展示に彩りを添えることとなった。

両像の伝来はこれまで明らかでなかったが、日本美術院で仏像修理を担った新納忠之介が、大正四年（一九一五）に吉野山の文化財を検分した記録（奈良県庁文書）に普



図1 普賢菩薩坐像 個人蔵



図2 不動明王及び二童子立像 個人蔵



図3 櫻本坊本堂内写真 当館蔵(中央の台上に普賢菩薩坐像がうつる)

賢菩薩像の写真が掲載され、また当館所蔵の日本美術院資料にも奈良・櫻本坊の本堂内に両像の姿がうつる写真があることから、ともに吉野山に伝わったと判明した。

明治時代初頭の神仏分離政策により吉野山では多くの堂舎が廃絶し、行き場を失ったおびただしい数の仏像が櫻本坊に集められ、大正時代まで護り伝えられていた「図3」。だが、大正八年（一九一九）に至って櫻本坊の存続と諸堂の修繕費調達のため、新納の仲介で名古屋の実業家・近藤友右衛門（二代 一八七四―一九三八）に両像を含む七十体あまりの仏像が譲渡され、多額の寄付が納められた。友右衛門の父である初代友右衛門（一八三二―一九〇四）は、「信濃屋」の屋号で綿糸商として躍進する傍ら、浄土真宗の説教・法話の道場「信道会館」を私財を投じて創立するなど、信心深い篤志家として知られていた。初代の信仰心は子息にも受け継がれ、櫻本坊の窮状に接して一役買って出たのである。

その後、友右衛門所蔵の両像は昭和十五年（一九四〇）に重要美術品に認定され、翌年に文部省国宝鑑査官丸尾彰三郎の取り成しで鎌倉国宝館に寄託された。当時の新聞記事には、「鎌倉国宝館に陳列されてある仏像類は主に鎌倉時代のものが多いので、見学者にも時代の異なるものとの美術的な比較が出来なかったのを遺憾とし、文部省国宝鑑定官丸尾彰三郎氏の斡旋で藤原時代の名作で重要美術に指定されてある木造普賢菩薩の坐像（二尺）と不動明王（三尺）及び両童子（せいたか童子頃から童子）が搬入され二十三日陳列された」とあり、大きな期待をもって鎌倉の地に迎えられたことがわかる。先の大戦が本格化した昭和十九年（一九四四）には、海軍が用意した移送用自動車で神奈川県津久井郡串川村（現在の相模原市緑区の一部）に疎開したこともあった。

戦後しばらくして鎌倉を離れると公開の機会はほとんどなくなったが、このたび縁あって当館に寄託される運びとなり、実に百年ぶりに奈良への里帰りが実現した。友右衛門が譲り受けた多くの仏像は次第に散逸したようで、両像以外で所在が確認できているのは阿弥陀如来坐像（イギリス、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館）、男神坐像（大阪・今宮戎神社）、天部立像（個人蔵）などわずかである。今後の精査がまたれるが、ともあれ普賢菩薩像と不動明王及び二童子像が旅した百年の歳月に思いを馳せながら、里帰りの展示をお楽しみいただきたい。

出陳一覧

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

9月28日(火)～

【彫刻】

【第1室】

阿弥陀如来立像

◎観音菩薩立像

不動明王立像

天部形立像

普賢菩薩坐像

不動明王及び二童子立像

【第2室】

◎阿閼如来坐像

天部坐像

◎文殊菩薩坐像

毘沙門天立像

◎菩薩立像

【第3室】

阿弥陀三尊像

【特別公開】

薬師如来坐像

【特別公開】

◎阿弥陀如来立像

阿弥陀如来立像

阿弥陀如来立像

【第4室】

三尊傳仏

塑像片(奈良県薬師寺西塔出土)

小型独尊傳仏(三重県夏見庵寺出土)

当館

塑像断片(迦楼羅頭部ほか)

(奈良県川原寺出土)

明日香村教育委員会

塑像断片(天部・僧形像ほか)

(滋賀県雪野寺出土)

福命寺

【第5室】

◎誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

◎誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

◎誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

◎誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

◎誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

◎誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

◎誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

◎誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

◎誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

◎誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

勢至菩薩立像

如来倚像(押出仏)

観音菩薩立像(押出仏)

【第6室】

四天王立像残片

◎広目天立像

◎薬師如来立像

文殊菩薩騎獅像

天部形立像

◎吉祥天立像

◎金剛力士立像

◎光背(二月堂本尊所用)

◎観音菩薩立像

◎観音菩薩立像

◎観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

◎千手観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

【第9室】

◎十一面観音菩薩立像

◎十一面観音菩薩立像

弥勒菩薩立像

林小路町自治会

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

弥勒菩薩立像

十二神特立像(子・巳神)

持国天立像・増長天立像

天部形立像

【第12室】

二天王立像

帝釈天坐像

吉祥天倚像

◎菩薩面

阿弥陀如来立像

◎金剛力士立像像内納入品

破損仏像残欠コレクション

◎菩薩面

阿弥陀如来立像

◎菩薩面

阿弥陀如来立像

◎菩薩面

阿弥陀如来立像

◎菩薩面

阿弥陀如来立像

◎菩薩面

阿弥陀如来立像

◎菩薩面

阿弥陀如来立像

◎菩薩面

阿弥陀如来立像

◎菩薩面

阿弥陀如来立像

◎菩薩面

阿弥陀如来立像

◎菩薩面

阿弥陀如来立像

当館

法徳寺

個人

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

室生寺

名品展
中国古代青銅器(坂本コレクション)
青銅器館



中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※◎＝国宝、○＝重要文化財

※展示品は都合により一部変更する場合がございます。

【表紙解説】

夾^{きょう}羅^ら襦^{じゅ}襦^{じゅ}袴^{はん}

絹製夾羅染 彩絵
長三〇三 身幅二八・七
奈良時代（八世紀）
正倉院宝物（南倉）

繊細な絹織物である羅で仕立てた袴。襦は、堂内の柱や境内に立てた竿先などに懸けて寺院を飾るものである。本品はたいへん保存状態がよく、三角形の襦頭、襦頭の頂上から下がる舌、三坪に区画された襦身、下部に付く四条の襦脚からなる。各部には、図柄を彫った板に挟んで染める夾羅染の技法で花文様を表した羅を用い、部分的に彩絵も施す。色の濃淡を活かした夾羅染の華麗な文様のみならず、染め文様に絵を重ねる、色や織文様のバリエーションに富む羅を用いるなど装飾性にあふれる品で、寺院の景色を華やかに彩ったことと想像される。

萩谷 みどり（当館学芸部研究員）

◆「第73回 正倉院展」にて展示。



◆奈良国立博物館賛助会

令和3年10月1日現在、特別支援会員1団体、特別会員4団体、一般会員（団体）15団体、一般会員（個人）80名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、
(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、
(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、
(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、
奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、(株)南都銀行、
小山(株)、オフィス・カワイ、
(株)葉風泰夢、桃谷樓

〔個人会員（新規）〕 沖 忠親様 令和3年7月ご入会
中山 敬子様 令和3年8月ご入会
北村 芳孝様 令和3年8月ご入会

◆「奈良博プレミアムカード」
「国立博物館メンバーズパス」のご案内



プレミアムカード



メンバーズパス

当館の特別展及び国立博物館4館の平常展をお得にご観覧いただける「奈良博プレミアムカード」、国立博物館4館の平常展を無料で観覧できる「国立博物館メンバーズパス」を販売しております。WEBからも購入いただけます。

詳しい情報は左記QRコードからご確認いただくか、当館観覧券売場へお問い合わせください。

新型コロナウイルス感染症対策について

当館では引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大予防のための対策を行っています。ご来館に際しては、以下のとおり、ご協力をお願いいたします。

37.5℃以上の発熱や風邪の症状、だるさ・息苦しさなどがある方、過去2週間以内に発熱や風邪症状で受診や服薬などをされた方、新型コロナウイルス陽性とされた方との濃厚接触がある方、過去2週間以内に政府から入国制限・入国後の観察期間を必要とされる国や地域への訪問歴及び当該地在住の方との濃厚接触がある方は、ご来館をお控えください。

入館前に検温を実施いたします。37.5℃以上の発熱が認められた場合には、ご入館をお断りいたします。

混雑状況により入館制限を実施する場合がございます。入館中はマスクを着用し、咳エチケットにご留意ください。アルコール消毒や手洗いにご協力ください。

展示室内では会話を控え、展示ケースには触れないでください。他の方との距離を保つようにしてください。

なお、展示やイベント等につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じ実施内容に変更が生じる可能性があります。あらかじめご理解いただけますようお願いいたします。

◆キャンパスメンバーズ

特別展「名画の殿堂 藤田美術館展」ではキャンパスメンバーズを対象に、学芸員による解説付き鑑賞会を実施します。

詳細は、当館ホームページまたは右記QRコードよりご確認ください。



令和3年10月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大谷大学、大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、
関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、
関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部、
関西学院大阪インターナショナル、京都外国語大学・京都外国語短期大学、
京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、
京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、
嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、
就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学、
同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、
奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良女子大学、
奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、
龍谷大学・龍谷大学短期大学（以上、五十音順）

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■10月3日(日)

「絵はがきと仏像研究」

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

たった1枚の絵はがきが、仏像の知られざる歴史の一側面を明らかにすることがあります。仏像研究における絵はがきの有用性について、近年の調査成果をふまえてお話しします。

[受付期間/9月13日(月) 10:00~10月2日(土) 17:00]

■11月21日(日)

「奈良博の壺」

吉澤 悟(当館学芸部長)

奈良博が所蔵する「壺」の色や形の良し悪し、鑑賞のポイントなど、壺を観る時のツボをご案内します。紹介作品(予定): 縄文晩期の壺、奈良時代の須恵器短頸壺、平安時代の猿投灰釉壺、常滑三筋壺、渥美蓮弁文壺、古瀬戸草花文瓶。

[受付期間/11月1日(月) 10:00~11月20日(土) 17:00]

■12月19日(日)

「閻魔王と地獄の美術」

内藤 航(当館学芸部研究員)

人はこの世を去った後、閻魔王に裁かれて次の行き先が決まる——古代インドで生まれたこの考えは、中国を経て日本に流入し、多様な造形が生まれました。その魅力と信仰について、鎌倉時代の彫像を中心にをご紹介します。

[受付期間/11月29日(月) 10:00~12月18日(土) 17:00]

■1月16日(日)

「辟邪絵をめぐる」

谷口 耕生(当館学芸部教育室長)

疫病や災いを引き起こすとされた鬼とたたかう五人の善神を描く平安絵巻の傑作「国宝 辟邪絵」。奈良博を代表する名品の魅力を紹介するとともに、その勇ましい図像の典拠や、「地獄草紙」の名で伝来した信仰背景にも迫ります。

[受付期間/12月27日(月) 10:00~1月15日(土) 17:00]

■2月20日(日)

「ほとけの装いにみる工芸」

三本 周作(当館学芸部研究員)

仏像や仏画のほとけは、美しい衣やよろい、装身具を身につけています。これらは織物、皮革、金具といった工芸品を彫刻や絵画として再現したものです。ほとけのきらびやかなファッションの世界を、実際の工芸品と比較しながら楽しめます。

[受付期間/1月31日(月) 10:00~2月19日(土) 17:00]

■3月20日(日)

「“サステナブル”な文化財保存」

荒木 臣紀(当館学芸部保存修理指導室長)

昨今よく耳にする単語“サステナブル(持続可能)”。この概念を組み込んで行なっている文化財保存活動を保存対象となった古写真(銀板写真)の紹介と共に解説いたします。

[受付期間/2月28日(月) 10:00~3月19日(土) 17:00]

【時 間】 各回とも14:00~15:30(13:30開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回90名(事前申込先着順)

【申込方法】 当館ホームページより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【申込受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

❖ 第73回 正倉院展 公開講座 ❖

■10月30日(土) 「正倉院の染織品にみる文様染め技法」

片岡 真純氏(宮内庁正倉院事務所保存課整理室員)

■11月6日(土) 「正倉院の筆」

杉本 一樹氏(宮内庁正倉院事務所宝物調査員(前所長))

■11月13日(土) 「正倉院のガラス器について -白瑠璃高坏を中心として-」

吉澤 悟(当館学芸部長)

【時 間】 13:30~15:00(13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回90名(事前申込制)

※抽選による座席指定制です。

【応募期間】 9月25日(土)~10月12日(火) 必着

【応募方法】 はがきかファクスに、代表者の郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号と同伴者(1名まで)の氏名、年齢、参加希望日を書いて、以下の宛先にご応募ください。

はがき: 〒539-0041(住所不要)

読売新聞大阪本社文化事業部

「第73回正倉院展」公開講座係

ファクス: 06-6366-2370

正倉院展ホームページからお申し込みいただけます。

【参加証の送付】 当選者には、10月20日(水)までに参加証をお送りします。当日必ずご持参ください。参加証で正倉院展会場に入場することはできません。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※はがき1枚につき1講座のお申し込みとなります。

※消せるボールペンは使用しないでください。

※お預かりした個人情報、本展公開講座の連絡のみに使用します。

【お問い合わせ】 読売新聞大阪本社文化事業部

電話: 06-7732-0063(平日10:00~17:00)

❖ イベント ❖

■英語落語

笑う門には福来る! 落語を英語で聞いて笑ってください。中学校英語で十分楽しめますので、英語が得意でなくても大丈夫です。お気軽にお越しください。

【日 時】 11月23日(火・祝) 14:00~15:45

※事前に申込をされた方は13時15分から、当日参加の方は13時30分から、受付を開始します。

【会 場】 当館講堂

【定 員】 90名

【参加費】 無料

※当日は「留学生の日」です。留学生の方は名品展(なら仏像館・青銅器館)の観覧も無料。ただし、学生証(日本国内の学校に限る)の提示が必要です。

【申込方法】 奈良国立博物館HP⇒「講座・催し物」⇒「イベント」⇒「英語落語」の申込画面、または右のQRコードより、必要事項を記入のうえお申し込みください。定員になり次第受付終了となります。



■文化財保存修理所特別公開

普段は見ることのできない、修理の現場を見学できる絶好の機会です。現場見学の前に文化財修理に関する当館研究員の解説もごさいます。

※修理所の見学は窓越しです。工房への入室はできません。撮影は固くお断りします。

【日 時】 12月16日(木) 第1回目/10:00~ 第2回目/13:00~ 第3回目/15:30~ 各回約90分

【定 員】 各回20名(事前申込制、抽選)

【集合場所】 当館講堂

【申込方法】 奈良国立博物館HP⇒「講座・催し物」⇒「イベント」⇒「文化財保存修理所特別公開」の申込画面、または右のQRコードより、必要事項を記入のうえ、お申し込みください。

【申込受付期間】 10月25日(月)から11月21日(日)まで。



第73回 正倉院展

しろあじぬのうで めき

白紬腕貫

絹製

(一隻) 丈46.0cm

最大幅27.8cm

(一隻) 丈46.5cm

最大幅27.5cm

奈良時代(8世紀)

正倉院宝物(南倉)



奈良時代の東大寺には、造東大寺司が管轄する「東大寺写経所」と呼ばれる大規模な写経所が存在した。ここには多くの経師(筆写担当)・校生(校正担当)が所属しており、日々經典類の書写が行われていた。

本品は腕貫と呼ばれるもので、今日の腕カバーに相当する。衣の袖に墨が付着するのを防ぐために装着した。一重の白紬を筒状に仕立て、それを白紬で作った紐で繋ぐ。正倉院には本品を含めて6両、片方のみのものが約20隻伝えられているが、いずれも白紬を用いて作られている。

紐には2箇所「高市老人」の墨書があるが、これは本品の使用者名である。この人物は正倉院文書にその名があり、天平8年(736)、29歳の時に「写経所」の経師、同11年(739)から天平神護元年(765)までは「写経所」の経師として働いていたことが分かる。但し、天平宝字4年(760)には、仮病をつかって出仕しないことがあり、呼び出しを受けたこともあった。

本品の袖口は擦り切れたように大きく破れており、日々写経を行っていた経師たちの苦勞を偲ぶことができる。

伊藤 旭人(当館学芸部研究員)

展示品の みどころ

名品展「珠玉の仏たち」(特別公開)

あみだによらいりゅうぞう

阿弥陀如来立像

木造 漆箔

像高98.5cm

鎌倉時代 建保4年(1216)

石川 尾添区

霊峰白山の山頂へと至る参道「加賀禪定道」沿いの檜新宮(標高1500m)に安置されていた像で、明治時代初頭の神仏分離で4kmほど山を下った石川県白山市尾添の地に移された。

仏師快慶が生涯に数多く手がけた像高三尺(約90cm)前後の来迎印を結ぶ阿弥陀立像、いわゆる三尺阿弥陀の一遺品。作者銘はないが、着衣の形式や細部まで行き届いた作風が快慶晩年の作品に似通っており、至近の仏師の作だろう。蓮華座にある「錦小路本尊也」の墨書は、京都錦小路(現在の京都市中京区の錦小路通)を指すとみられているが、本像がもと京都にあったとする推測は入念かつ本格的な作行からもうなずける。

手先や蓮華座にまで当初の部材を残すものの損傷がいちじるしかったため、昨年度、当館の文化財保存修理所で公益財団法人美術院により保存修理がなされて面目を一新した。修理に先立ち実施したX線CTスキャン調査では構造や制作技法の詳細が判明したほか、過去に解体された形跡がなく像内に品物を納めていないことも確認された。

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)



■開館日時(10月～12月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

※正倉院展会期中の月～木曜日は、午前9時～午後6時

※正倉院展会期中の金・土・日曜、祝日は午前9時～午後8時

■休館日／毎週月曜日、12月28日～31日、1月1日

※正倉院展会期中は無休

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集陳列

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはマイリ>IDをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

■前売日時指定券料金「第73回 正倉院展」 (当日券の販売はありません)

	一般	高校・大学生	小・中学生
通常券	2,000円	1,500円	500円

※団体料金はありません。

※販売方法につきましては、中面「第73回正倉院展」の記事をご確認ください。その他の券種等の詳細については、展覧会チラシ、当館ホームページ、正倉院展ホームページにてご確認ください。

※この料金で名品展(なら仏像館・青銅器館)を観覧することはできません。ただし本展の前売日時指定券をお持ちの方は、名品展を特別料金(一般200円、大学生100円)でご観覧いただけます。

■観覧料金 特別展「名画の殿堂 藤田美術館展」

	一般	高校・大学生
個人(当日)	1,200円	1,000円

※前売券の販売はありません。※団体料金はありません。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ会員(学生)の方は、400円となります。

※障害者手帳またはマイリ>IDをお持ちの方(介護者1名を含む)、奈良プレミアムカード会員の方(1回目および2回目)は無料です。

※この料金で名品展(なら仏像館・青銅器館)もご観覧いただけます。



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。